

令和6年第2回議会活性化特別委員会会議録

1. 日 時 令和6年6月24日（月）
2. 場 所 白井市役所本庁舎4階 大委員会室
3. 議 題 (1) 議会改革に係る検討事項について
4. 出席委員 長谷川 則 夫 委 員 長・小田川 敦 子 副 委 員 長
秋 谷 公 臣 委 員・柴 田 圭 子 委 員
古 澤 由 紀 子 委 員・石 井 恵 子 委 員
伊 藤 仁 委 員・田 中 和 人 委 員
広 沢 修 司 委 員・平 田 新 子 委 員
徳 本 光 香 委 員・荒 井 靖 行 委 員
石 原 淑 行 委 員・久 保 田 江 美 委 員
石 田 里 美 委 員・武 藤 美 砂 子 委 員
根 本 敦 子 委 員・岩 田 典 之 議 長
5. 欠席委員 なし
6. 会議の経過 別紙のとおり
7. 議会事務局 局 長 松 岡 正 純
主 査 補 會 卓 也
主 任 主 事 篠 田 順 子

委員長の挨拶

○松岡正純議会議務局長 定刻となりましたので、始めさせていただきます。

会議に先立ちまして、長谷川委員長より御挨拶をお願いいたします。

○長谷川則夫委員長 皆様、改めましておはようございます。本日皆様のお手元に配付されたデジタルワークスの中にAI議事録の事例が紹介されていますので、後で御覧いただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

○松岡正純議会議務局長 ありがとうございます。

委員会会議につき、議事等につきましては長谷川委員長をお願いいたします。

会議の経過

開会 午前10時00分

○長谷川則夫委員長 ただいまの出席は18名です。委員会条例第16条の規定により定足数に達しております。これより令和6年第2回議会活性化特別委員会を開会いたします。

本日の会議は、お手元に配付の日程表のとおりでございます。

(1) 議会改革に係る検討事項について

○長谷川則夫委員長 日程第1、議会改革に係る検討事項についてを議題とします。

前回に引き続き協議を進めますけれども、本日は検討事項として残っておりました2-3、3、4と項目を1つずつ進めてまいりますので、よろしくをお願いいたします。

○田中和八委員 説明の途中ですみません。前回の会議を体調不良で早退させていただいたので、二、三お伺いというより気づいたところをお話ししたいんですけれどもいかがでしょうか。

○長谷川則夫委員長 前回の結果ということですか。

○田中和八委員 はい、欠席して、当然議事録は読んでおりますけれども、その中でちょっとこれはどうなのかなというのがあったものですから、そのお答えは別に必要とはしませんけれども、自分の賛否も含めて先にお話ししないと、次の検討を進めるところがおかしくなっちゃうかなと思ってお聞きしたいことがあります。

○長谷川則夫委員長 決定した事項に対してという質疑でございますか。

○田中和八委員 会議自体のことについてです。3分ぐらいかな。

○長谷川則夫委員長 決定事項に対して質疑ということ、確認でしょうか。

○田中和八委員 そうですね、確認というか、も含めて会議の進め方等が気になったものですから、今後のためにちょっと言っておきたいなど。

○長谷川則夫委員長 会議の進め方に不服があるということですか。

○田中和八委員 はい。

○長谷川則夫委員長 それは認めませんけれども。

○田中和八委員 認めない。

○長谷川則夫委員長 はい。決定しておりますので、決定した事項は覆りませんので。

○田中和八委員 その件に関しては、当然欠席ですから、何対何で可決されたかは分かりませんが、それを覆そうとは思っておりません。

○長谷川則夫委員長 要は進め方の考え方ですか。

○田中和八委員 考え方、そうですね、確認といいますか、そこのところだと思います。

○長谷川則夫委員長 それでは、その事項を発言してください。

○田中和八委員 お答えを特に求めるものではありません。

前回会議で体調不良により早退をさせていただきました。4月18日にサイドブックスに「検討を進めていく」とあります。当日の会議録を何回も読ませていただき、気になったところを発言させていただきたいと思います。

まず1点目は、最初にユーチューブの活用についても、特別委員会で決を採ったにもかかわらず保留と再び議論していくのはおかしいと私は感じております。前回の検討を進める決も、再びこのような形で戻していいんだろうというのが一つありました。

2点目は、提案者が調査勉強してきた説明、補足説明が、平田委員、小田川副委員長、徳本委員からあり、議会だよりでの平田委員の説明、また、荒井委員、根本委員と、会議録ページにして8ページから17ページにわたり補足の説明がありました。これだけの量をその場で理解した方が何人いたでしょうか。文字を読んだ私にはすぐに内容の理解ができませんでした。なぜ持ち帰り後日の判断にできなかったのでしょうか。

3点目は、「多くの議論を重ねた上で委員長が皆さんからの御意見を伺った中で、前向きにというのともう少し会議の中でという話が出て、どちらとも言えない状況ですので、結論はもう少し時間をいただきたいと思います。どちらにしても連休明けの調整になりますけれども、こちらから事務局の体制とか、ほかの、何というんですか、3町の組合の議会とかいろいろ入ってきますので、その中で日程を組まないといけないので、いつになるか分かりませんがなるべく早く皆さんに連絡して、できるだけ多くの人に参加していただくようにしたいと思います」と発言して会議を閉めているはずなんです。でも、その後いろいろな意見があり、最終的に今後進めるか、進める方向、調査研究を進めるということについて決を採り、何対何かは知りませんが賛成多数になりました。

このような内容の中で、2時間半にわたる会議、委員長が結論を出さないで、ほかの方のお話を聞

いて出すという仕切り方についてちょっと疑問を持たざるを得なかったということです。

それと、以上のことを考えて、私個人、同調者、常任委員会での検討は賛成なんですけれども、特別委員会での検討ということは導入ありきの検討になるかなと私自身は考えておりますので、私の賛否としては反対ということを表明させていただきたいと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 分かりました。

それでは、会議を戻します。提案がありました2-3の項目から始めたいと思います。

○広沢修司委員 すみません。よろしいですか。私も前回欠席したので、内容の確認をさせていただきたいんですけれども。

○長谷川則夫委員長 すみません、内容の確認を欠席された方からされると会議が進みませんので、なるべく端的にお願いします。

○広沢修司委員 決定した事項、何の決定があったのかという内容を確認させてください。

○長谷川則夫委員長 前回決定した事項に関しては、1-1、1-2、1-3について今後検討していくことに決定したと、これが決定事項です。

○広沢修司委員 分かりました。今後検討していくというのは分科会をつくって進めていくということですか。

○長谷川則夫委員長 それについては、検討する方法については今後この委員会で決定をします。

○広沢修司委員 分かりました。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

それでは、改めて。ごめんなさい。失礼しました。では、今のところは私のほうで指名をしておりますので、会議録のほうは田中委員と広沢委員のお名前を伏せさせていただきますので、よろしくをお願いします。

それでは2-3の項目から始めたいと思いますけれども、2-3の項目に対する補足説明をできるだけ手短にお願いします。

徳本委員。

○徳本光香委員 では、タブレットのほうに資料を3つ載せさせていただいているので、なるべく端的に説明します。

私たち日本共産党からの今回の提案は、本会議の録画映像に字幕をつけるということで、要旨としては、難聴の方や聾の方にも文字で理解してもらおうということもありますし、特に議会に関しては傍聴していても聞こえづらいという声も多いので、映像で見ても高齢者や全ての人が見やすいように字幕をつけてバリアフリー化を進めてはどうかという提案です。

資料1、ピンク色の「合理的配慮」と書いてある資料なんですけれども、これは長いのでポイントだけ言うと、まさに今年の4月1日から事業者にも合理的配慮が義務化されたということで、1ペー

ジ目の表の中の赤枠にあります。今までは何か障害者の人から求められたらなるべく努力しようということでしたが、もう義務、必ずできる限りの配慮をしようということになって、今の時代として日本全体があらゆる人に合理的な配慮をしていこうと、この4月にまた大きく動き出したというのがこの資料で特に言いたいところです。

もし開けましたらこの資料の8ページのところに「不当な差別的取扱いについて」と書いてあるんですけども、事業者が差別してはいけないということは「具体的には」というところにあるんですけども、行政機関等も当然その一歩先をいって、差別をしない、合理的配慮は義務であるということがありますので、これを一緒にまず確認したいというのが資料1です。

資料2のほうも開けてください。横向きの資料、1ページ目に「ウェブアクセシビリティ」と書いてあります。これはデジタル庁のホームページの説明文です。この言葉は私も最近まで知らなかったんですけども、簡単に言うと、人に優しいデジタル社会ということで、インターネット上でも障害のある人や御高齢の方など全ての人がインターネットで提供されている情報にスムーズにアクセス、到達して利用できるようにしましょうというのをデジタル庁としても推進しているということです。

3ページに緑色の横向きの表があるので見てほしいんですけども、資料2の3ページです。達成基準早見表というのがありまして、A、AAとか3つAがあるというのがあるんですけども、4ページの一番右の列にAといっぱい書いてあるところ、分かるでしょうか。ここにレベルが書いてあるんですけども、A1つというのは適合の最低レベルということが書いてあります。できるだけ最初に到達してほしい基準ということなんですけれども。

緑色の3ページに戻ってください。3ページの左上の1、2と書いてあるのが分かるでしょうか。「キャプション収録済み」と書いてあるんですけども、収録済みの録画映像にキャプション、字幕をつけるというのはA、最低レベルということです。その2つ下を見ると、ライブ、生中継で字幕をつけるというのはちょっとレベルが高いのでAAという感じになっています。なので、私としてはまずは録画したものに後で字幕をつけて提供するという最低レベルのAランクを目指してはどうかというのが今回の提案です。

5ページ以降、これは内閣府の「障害者の差別解消に向けた理解促進ポータルサイト」というところ、特に今回「環境の整備」というところが大事になってくるので、ここから抜き出してきたんですけども。資料2の8ページのところにちょうど「環境の整備」として、「動画の内容を伝えやすくするために字幕を表示する機能をつけました」という、代表例としても字幕が挙げられているということがありまして。

この資料の10ページなどを見ますと、皆さんもテレビを見ているとネット上でももうユーチューブにも字幕がついているのが当たり前ですし、NHKでも100%、民放キー局でも平成19年の時点でも89%に字幕がついているということで、これをやはり行政のほうも目指していくべきじゃないかなと思っています。

では、3つ目の資料3のほうです。これも内閣府の改正障害者差別解消法についての解説なんですけれども、これも長いので、特に14ページを開いてください。「環境の整備」と書いてあって。よろしいでしょうか。〔「14ページじゃない」と言う者あり〕違いますか。画像の下に14ページと書いてあるのは何ページになるのかな。15ページですかね。〔「環境の整備は15ページ」と言う者あり〕15ページですね。左の上のほうの表の中に「アクセシビリティを担保したウェブサイト等を作成する」ということが書いてあって、今言ったようなインターネット上の情報への到達度合いを確保するよというということです。なので、これは字幕も一つの手法かなと思っていました。

一番上の「環境の整備」の下、第5条というのを見ていただくと、「行政機関等及び事業者は」となっているので、やはり議会でも環境の整備に努めなければならないという対象になっているかなと思っています。

この資料の一番最後、21ページ、22ページに「つなぐ窓口」というのがありまして、内閣府に電話で問い合わせたところ、行政の対応はどこを目指すべきかについて問合せしたら「つなぐ窓口」につないでいただきまして、やはり事業者だけではなく行政も字幕をつけて全ての人が理解できるように、それを目指してほしいという意図であるということも確認できました。

以上です。

○長谷川則夫委員長 今説明をいただきましたけれども、補足の説明を求めたい方いらっしゃいますか。

平田委員。

○平田新子委員 字幕を入れる前提として、固有名詞とか間違いの変換がないよというところの連動はどう考えていらっしゃるのか伺いたと思います。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 それは文字起こしとかの問題ですか。先ほど確認があったように、一応のA I議事録で正確にしていこう、固有名詞なんかは人間が直すみたいな方法が今主流になっているので、できれば私もそっちの提案者でもあるので、そちらで迅速になるべく安く文字化して、それを映像に当てはめられたらいいなというふうには、それが一番簡単かなと、人が書き起こすよりもと思っています。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

○平田新子委員 結構です。

○長谷川則夫委員長 ほかにございますか。

田中委員。

○田中和八委員 それではお伺いしたいんですけども、その文字なんですけど、テレビとかだと大体フルで文字が入っているかなという感覚があるんです。病院のテレビなんかはちょっとはしょって要点だけ入っているんです。どちらのほうを一応考えているか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 私のほうはテレビのほうがはしょってるかなという気がしていて、お笑い芸人のポイントになる言葉とかと考えているんですけども、やはり議会なのでフルかなと考えています。なかなか要約するにしても御本人の確認とかがまた難しいかなと思うので、できれば自動的に文字化したものを後で大体タイミングを合わせて映像につけて、リアル、生中継は難しいんで後からつけるという作業だけは要りますけれども、フルバージョンが一番議員の意図も伝わるかなとは、執行部の意図も伝わるかなと思っています。

○長谷川則夫委員長 ほかにございますか。

石井委員。

○石井恵子委員 徳本委員の説明ありがとうございます。資料もたくさんあって、行政としてやるべきだという話が分かったんですけども、これは行政としてやってもらうようにしてほしいということなのか、我々議会だけでこれを取り組んでやる方向に持っていくんだということなのか、これはどちらなのでしょう。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 今は議会活性化の委員会なので、議会としてまず議会の録画映像を放送するときの字幕というのに今回は限っています。市長の「きくちゃんねる」とか、市役所で流れている映像を見ても、もう既に黒い背景でちゃんと白字ですごく見やすい字幕とかついているので、できればそのようにつけたらいいんじゃないかなと思っています。

○長谷川則夫委員長 石井委員。

○石井恵子委員 もう一つなんですけれども、松戸市議会は今議会から字幕入りでスタートしているんです。それがかなり文字を間違えていて、漢字なんかは随分違ったことで出ているらしいんです。松戸市の場合は即なので、同時中継しながら文字を出しているみたいなんです。さっき徳本委員が説明の中でおっしゃっていたのは、即ではなくて後から文字を出すということでよかったのでしょうか。そこちょっと確認させてください。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 そうです。後からということですよ。さっきのリンクを見ても、やはりライブで正確にというのはユーチューブも結構間違ったりしているので、正確さは最低限必要だなと思っているので、多少配信が遅れても正確な字幕をつけたいなと思っています。後からです。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

久保田委員、手が上がりましたけれどもありますか。久保田委員。

○久保田江美委員 ユーチューブ以外でやはりつけている、今、松戸のと言っていたのであれなのか、ユーチューブ以外でつけている自治体というか、うちはユーチューブじゃないじゃないですか、配信自体が、なのでこういうふうにつけている自治体はどのぐらい、結構多いのかなと思って聞きたかったんです。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 今回は意義というところからスタートしているので、どこが多いかというのはあまり重要視してなかったんですけども、取りあえず取手市とかは正確に全てA I 議事録で議事録を作って人が正確に直したものをつけるというのもやっていますよね。リアルタイムもある程度はできるみたいなので、その会議場で私たちが誰が発言したみたいなの確認するためにリアルタイムの字幕もできるみたいですけども、今回は私はそこまでは目指していなくて、配信するものに後でつけられればいいかなと思っています。全体的なパーセンテージはよく分かっていないです。すみません。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

田中委員。

○田中和八委員 録画のほうに字幕をつける、それで今徳本委員のほうで、1階にある市長のコメントにはもう既にできていますよというような話ですよ。そのつけ方というか手間というか、その辺のことというのは、例えば総務か何かに聞いたとかというのがあれば教えていただきたいんですけども。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 一応技術的には可能と聞いたと思うんですけども、最新の手間とか料金についてはまだ確認してないです。すみません。

○長谷川則夫委員長 私からですけども、皆さんこの協議に入る前に、字幕がつけられるかどうか、可能かの確認を現行の録画配信業者にしております。追加料金は発生するけれども可能だという回答を得ていますので報告をしておきます。ただ、今録画配信が生の配信があつてからずれて配信されていますよね。そこまでの間に本当に間に合うかどうかというのは今後の課題だと思います。

以上です。

ほかにございますか。

正直なところA I 議事録とセットになってしまうというところがあるので、さっきの検討事項と併せてになってしまう可能性はあるんですけども、データで提供しないといけないというところと、なかなか今徳本委員がおっしゃったように、当日はどうしても誤変換という問題がありますから、それをきちんとした文字にして録画のほうに載せなきゃいけないというところがありますので、それは今後の検討材料になります。

ほかにございますか。

石井委員。

○石井恵子委員 もう一回確認します。先ほど徳本委員のほうから、文字を入れることについてはスピードよりも正確さだということで、特に議会であるから要点ではなく全てきちんと発言者の発言した内容はそのまま載せると、私はすごくそれいいと思うんです。きちんと発言したとおりに載せるということと、それからスピードじゃなくて、速くやろうというんじゃなくて正確さを求めるんだという

ことで、後になってもいいから文字がきちんと起きているほうがいいという、そのお考えは私はもう大賛成です。これは議事録をA Iでやるということを導入しないとできないことなんですか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 いや、人間でもできるとは思うんですけども、従来のやはり聞いて書き起こすという手間ありきになっちゃうので大変だなとは思っています。なので、たまたま同期していますけれども、できればそこを機械に、最初の9割以上は正確性があるというものが増えているので、まずは機械でやってもらって人が直したものを載せるのが一番簡単かなとは思っていますけれども。長谷川委員長もそれとセットかなと理解されているんですけども、自分としてはどういう方法でも字幕が必要という点のみです。まず今回の提案は。

○長谷川則夫委員長 石井委員。

○石井恵子委員 前回の1-1、1-2、1-3は議事録のICT化ということでこれから検討する方向になりましたが、私は今の御提案はこれとセットではないと思うんです。あくまでも徳本委員の御提案は2-3に含まれますので、1の部類じゃないと思うんですよ。だから、私かねてからやはり本会議の内容に、録画映像に字幕をつけるというのはもう大賛成で、これはぜひやりたいとずっと思っていました。ただ、これがA I議事録とセットになるという先ほどの委員長の発言だと、私は「あれ」と思っちゃうわけですよ。徳本委員の御提案はあくまでも単独でもやりたいんだということですよ。よろしいですか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 はい、もう一度言いますけれども、私はA I議事録が駄目であっても手でやるという方法があると思っているので、どういう前段階の作業があろうともやはり文字で届けるというのが重要だなと思って別枠で提案しています。一緒です。

○長谷川則夫委員長 石井委員。

○石井恵子委員 徳本委員の今のお話を伺って安心しました。委員長の発言はちょっと軽いと思います。

○長谷川則夫委員長 私のほうで言ったのは、現行の同時配信から録画配信までのいとまがないので、A I議事録でやったほうがよかろうという発言ですので、誤解のないようお願いいたします。

平田委員。

○平田新子委員 今セットでやるという、関連があるとおっしゃったんだと私は理解しています。その上で、例えばA I議事録だったら10年分の議事録を読み込ませて誤字脱字がなるべくないようにというようなことをした上で文字化されるわけですよね。それで、これが単独で文字だけが出るというときは、その操作はどこが、執行部の人やるのか、それをどこでやると考えていらっしゃるのかなというので、それによって予算の使い方も変わってくると思うので、どこを想定しておっしゃっているのか伺います。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 そうですね、自分がA Iに議事録を任せる部分があつていいと思つているので、一番A I議事録プラス字幕にするというのがライブじゃない状態では速いかなとは思つていますがけれども、今石井委員がおっしゃつたように別個で提案はしているので、そうですね、検討してみたらですがけれども、A I議事録が却下となつたら難しくなるかもしれないですがけれども、その場合は執行部か議員で手分けするとかになるんですかね。それか委託している文字起こしとかもありますよね、今、それを利用する、それということになるのかな。委託して、一番現実的なのは委託して文字起こしがあつたものをチェックした上で載つけるということになるのかなと思つています。

○長谷川則夫委員長 柴田委員。

○柴田圭子委員 先ほど委員長が今の業者に録画配信に字幕を載せるのは可能だという確認はしているということでしたけれども、それはどういうプロセスでどこが載せるという作業をするというので確認されたんでしょうか。

○長谷川則夫委員長 前回最初のときに申しあげましたけれども、現行の録画中継をしている会社にデータとして送つて載せていただく考え方になります。

○長谷川則夫委員長 議長。

○岩田典之議長 たしか前、前年ですけれども、議事録を確認したら、業者に頼むと1時間当たり5,000円ということなので、業者に頼む場合ですね。そうしますと、本会議の時間というのは事務局今分かりますか、かなりの時間ですよ。そうすると年間かなり高額なので、1時間5,000円というのは現実的ではないと思つていますので、もし若干遅れても録画映像に文字化をするのであれば違った方法かなと考へていますけれども。

○長谷川則夫委員長 金額の提示もありましたので、その方法も検討しなきゃいけないということも分かっています。

荒井委員。

○荒井靖行委員 徳本委員に質問したいんですけども、私はA I議事録で進めるべきだとは思つていますが、例えば今の運用でいくと、実際中継した後、録画が出ていくのはほぼ1週間後という流れがあります。これでもちょっと遅いという議論もあるんですけども、今回文字を載せるということになるとそれより遅くなるのが考へられると思うんです。その場合は最初にいわゆる字幕スーパーがない状態を載せて後から載せるような、そういう運用でも大丈夫という具合にお考へですか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 別にいいと思つます。今は字幕なしで5日後とか6日後に出しているの、それを出しておいて字幕をつけられるときに差し替へるというのも今より一歩前進かなと思つます。

○長谷川則夫委員長 先に手を挙げましたけれども、ありますか。柴田委員。

○柴田圭子委員 続いて確認したかったのは、今の会社が可能だというのは、今議事録は別の会社が

文字起こししているわけでしょう。その議事録を配信している会社に渡してくっつけてもらうという作業なんですか。それともまた別のソフトか何かで入れるんですか。

○長谷川則夫委員長 確認したのは、現行の文字起こしをしている会社からデータをいただいて今録画配信をしている会社に提供するという形です。

○長谷川則夫委員長 事務局。

○松岡正純議会議務局長 現在映像配信の業者に文字起こしを同じ会社としてお願いをしているという状況です。

○長谷川則夫委員長 失礼しました。

伊藤委員。

○伊藤 仁委員 業者のほうはきっとAI議事録でもうやって、文字づけするのもきっと関連ソフト一つあればすぐできる話なんだと。ですから、幾らでできるかということを確認しましたでしょうか。今やっている映像配信に文字データをつけるとなるとどのぐらいの費用がかかるというような。

○長谷川則夫委員長 録画データに文字をつける費用は、先ほど議長がおっしゃったように1時間当たり5,000円ということですか。

○伊藤 仁委員 それで1時間当たり5,000円ということなんですか。

○長谷川則夫委員長 議長。

○岩田典之議長 それは私が調べたんじゃないかと、前のこの委員会の議事録のほうで確認すると1時間当たり5,000円というのが載っていましたので、そういう意味です。私が調べたんではありません。

○長谷川則夫委員長 委員会のほうで調査していただいた、こちらの事務局のほうで調査していただいて5,000円と。だから、本会議の全ての時間掛ける5,000円ですからその辺を、では議長がおっしゃったようにほかの方法があるのかというところの話になりますけれども。

○伊藤 仁委員 高いんだか安いんだか分かんないんだよ。

○長谷川則夫委員長 だから、考え方として、1回の定例会で本会議の数がありますから、そこ掛ける例えば1回の時間が8時間として、1回の定例会が例えば40時間としたら、それ掛ける5,000円という形ですよ。それ掛ける年4回という形ですから、これはあくまでも概算ですけども。

伊藤委員。

○伊藤 仁委員 確認なんですけれども、議事録を起こすのと文字データを貼りつけるのと別の料金で5,000円だということですか。

○長谷川則夫委員長 そうです。だから、文字起こしする料金はもともとあって、委託していますから、それプラス1時間当たり5,000円と。

○小田川敦子副委員長 いつ配ったんですか。タブレットの中には載っていない。

○長谷川則夫委員長 タブレットには載っていないと思うな。最初の会議の頃ですよ、たしか発言していただいたので。

徳本委員。

○徳本光香委員 AI 議事録を使わない場合は非現実的かなというのは私もそう思っています。1時間5,000円と。それを考えていたとき、もしAI 議事録を別個で考えて、それはやらないとなった場合、前向きに検討とはなっていますけれども、それを別に考えてみた場合、委託業者が議事録を作っていますよね。そうしたら映像のホームページにここに議事録もありますと載せるというのもありかなと今思いました。本当は映像に載せたいんだけど、それで1時間5,000円で何十時間分もやるというんだったら、これを見ながら映像の補足にしてくださいとかしかなのかなと、今思いついたのはそれですかね。ちょっと失笑を食らう提案だとは思いますがけれども。

だから、やはりリアルタイムがもう民放でもどこでもユーチューバーでも分かりやすく伝えるには映像プラス字幕というのは常識にはなるとは思いますけれども、そういう苦肉の策もあるのかなと今思いました。取りあえず検討はしてみようとなってくれればとすごく市民にとっていいかなとは思っています。

○長谷川則夫委員長 ほかに質疑ございますか。

石原委員。

○石原淑行委員 文字を動画につけるのはとにかく障害者にとっては非常に便利なものですし、あるべきものかなと考えたんですけども、方法としてやはりお金がかかるという部分が、そこは研究していくところなのかなと思っていまして。

例えば、全然分からないんですけども、音楽の歌詞を流すのに、歌詞が流れてきて次の行に行くような、何かそういうイメージはあるんですが、何というんでしょう、よく音楽を動画で聞くと歌詞が、今読んでいるところがどンドン色が映って行って、そんなのというのはどう、システムがあるのか。すみません、ちょっと今変な思いついちゃったもので、そういうようなものもあるのかなとか、いろいろな研究をしていいのかなとか思いました。今、貼りつけて目で追ってもらおうということをやっていたので。

○長谷川則夫委員長 現状市のホームページとか他市の生中継とかを御覧になったことがあると思うんですけども、発言をされたと同時に文字が出てきます。そういう状態で繰り返していくんです。先ほどどなたがおっしゃったように、どうしても同時中継ですと誤変換があります。松戸市議会なんかは、漢字が違うとか言っていることが違うとかはあります。だけれども、石原委員がおっしゃったように、スクロールされるような画面というのは私はまだ見たことはないです。徐々に発言が上がってくるような。

○長谷川則夫委員長 議長。

○岩田典之議長 先月か先々月か、副議長は一緒に行ったんですけども、水戸市に議長会で視察に行きました。そのときに、ほかでもやっていますけれども、傍聴席にスクリーン、パネルというか、何だろう、いわゆる議員が発言する、議員といいますが、発言すると同時に傍聴席のスクリーンというか、パネルに文字が出てくるんです。ほぼ同時です。ほぼ間違いがありません。もちろん学習させ

ているんですけれども。それはアミボイスじゃなくてUD何とかというので、そんなに高価なものではない安価。ですから、もう日進月歩ですから、少し待てばほぼ間違いないようなものが出てきますし、固有名詞とか専門用語とかを入れていけば、もうちょっと待てばかなりいいものが出てくると思うんです。副議長にも確認してもらえばいい、ほぼ完璧なものが出てきました。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。

秋谷委員。

○秋谷公臣委員 私も直接その画面を傍聴席で見ました。ただ、白井市と水戸市議会の事情が違うんでいいんですけれども、もう本当にかなり今議長も言ったように見やすかったです。大きなスクリーンに間違いなくきれいに出て。〔「文字だけ出てくるのですか」と言う者あり〕そう。

ただ、これも言っているのかどうか、事務局の人数が向こうは30人近くいるのかな、皆さん、この前長崎市議会も行ったんだけど、やはり事務局に何人いますか、30人と言ったんだけど、うちはそのなにもいないんで、それを誰がやるんですかという話になっちゃうと、その手間とかなんかが大変なんで、それ専門じゃないからね、何人かいるような形なんで。

今言ったように日進月歩で、それがどんどん人がいなくてもという形になってくる時代がいつか来ると思うんで、松戸市議会とうちはまた規模の大きさも違うんで、そういう当たっている職員が何人か専属でそこにいなくちゃいけないんで、だからそれも含めると、確かに水戸市議会は見やすかったです。すばらしいなと思いました。

以上です。

○長谷川則夫委員長 議長に確認なんですけれども、その市議会の予算は聞かれましたか。

岩田議長。

○岩田典之議長 予算よりもかかる費用を聞いたら、たしか初期費用が4万円か5万円ぐらいで月2万円ぐらいなので、白井市議会でも十分可能だと思ったので今発言したんですけれども。それまでは初期費用が何百万円とかかかると思っていたんだけど、10万円かからない、月に2万円ぐらい。水戸市議会がそうだそうです。それは要は傍聴席にあるテロップだけなので、実際の本会議のネット配信とは違いますけれどもね。ですので、あれぐらいだからもうちょっと待てばまた良くなると思うけれども。

以上です。

○長谷川則夫委員長 要は画像に貼りつけるのではなくて文字だけ出てくる画面ということでよろしいですか。

議長。

○岩田典之議長 要は画像で議員とか執行がしゃべりますよね。そうして、要はテレビと一緒にですよ。ほぼ同時にテロップが出てくるので、ほぼ間違いがない。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。そういう事例もあるということですね。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 UDトークなんですけれども、実は近場の船橋市議会でも導入しているんです。今検索してもらえるとすぐ出ると思うんですけれども、ライブ中継の字幕配信でUDトークが実際に使っているんです。ですから、こういうケースとして視察に行くということも含めて、白井市議会のできるかどうかという調査研究を進められたらなと思いました。いろいろ現行の中で新しく始めるためには、予算を増やすであったり職員を増やすであったり、それか現行のパワーでやり切るかという選択になってくるのは、やはり調査研究をしないと結論まで行き着かないことなので、これだけいろいろな方から今までにない活発な御意見がある中で、やはり実際どうなんだという適正値を見るためにも、一歩進めて調査研究に行ったらどうかと思いました。これは意見です。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかに。

平田委員。

○平田新子委員 私も今の小田川副委員長の御意見に賛成します。というのは、いろいろな方の課題が幾つか見えてきたと思うんです。要するに、映像配信で後日出てくるものは、例えば間で間合いがあったとか、いろいろなところが編集されて出てきますよね。そうすると、オンタイムでやるのと時間的に誤差が出てくるわけですよ。そこを誰かが詰めなきゃいけないということも出てきますし。それから、正確性ということにおいては、間違った文字に変換されないノウハウが必要ということがありますし。それから、前回のテーマだった問題に引っかけて関連して考えるとすれば、議事録を今録音したもので文字起こししてもらっているその費用は要らなくなるわけです。それで新しいものを入れたときに、その導入金額、そこから文字を画像につけて配信する、その辺のお金の流れというのをきちんと研究していかないとできないと思うんですけれども、まず方向性としてこれを検討するかしないかということで考えたら、やはり検討するに値すると思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 意見のほうに移っちゃっていますけれども、質疑はよろしいですかね。

広沢委員。

○広沢修司委員 今捉えている課題はどんなところがあるか。今出てきているのは機械的に実際の議会があってから配信までの期間に間に合うかどうかとかスピード感の問題と、金額の問題というのもこれから検討していくテーマにはなると思うんですけれども、それ以外に何か課題になりそうなことというのは捉えられていらっしゃいますか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 いや、今結構課題は出たかなと思っています。やはり正確性とスピードと予算と人の手間というのはこれからの検討する上でいろいろ条件が変わるかなと思っていますけれども、大

体そこら辺かなと思います。

○**広沢修司委員** ありがとうございます。

○**長谷川則夫委員長** よろしいですか。

質疑がなければ、御意見等も合わせて。

田中委員。

○**田中和八委員** 徳本委員の考え方とすると、定例会で本会議でしゃべったこと全て、議案の説明から何から全てやりたいなというお考えなのか、それとも、その辺のところは例えばいいよと、逆に一般質問なんかは特にやりたいなとか、そのような考えというのはありますか。

○**長谷川則夫委員長** 徳本委員。

○**徳本光香委員** 私はやはり全てかなと思っています。選ぶのは視聴者の方なので、特に執行部の方は声量とか明瞭さもまちまちで、マスク着用のときははっきりといってもなかなか難しいところがあるので、そこに文字が出ているといいなと思うので、特に議案なんかは難しいですから、文字で補足できると私たち自身も理解しやすいかなと思っていますので、なるべく全部と思っています。

○**田中和八委員** 了解いたしました。

○**長谷川則夫委員長** 質疑のほうはよろしいでしょうか。

もしこれについて、2点ほど意見が出ましたけれども、ほかに意見のある方いらっしゃいますか。

広沢委員。

○**広沢修司委員** 今の特別委員会で決めるのは、これをやるのが有意義かどうかということが今話し合われていると思うんですけども、文字で読みますと健常者にとっても理解しやすいので、検討する意義があると思います。

検討をする中で、分科会なりつくって課題が解決できる範囲で実施できればいいかなという、例えばスピードとか金額の制限の中で、できる範囲でやっていければいいかなと考えます。

以上です。

○**長谷川則夫委員長** ほかに御意見ございますか。

荒井委員。

○**荒井靖行委員** まず、徳本委員からも話がありましたけれども、行政については合理的配慮の提供というのはもう完全に義務化されている状況です。その中で本来私たち市議会としてその配慮が提供できるかどうか、これはもう義務化されているわけですから、やる前提でやり方をどうするかをこれから議論するべきだという具合に考えます。

以上です。

○**長谷川則夫委員長** ほかに御意見ございますか。

石原委員。

○**石原淑行委員** 私も要旨のところにあるとおり、難聴者やろうの方にも理解しやすい動画を配信す

るというこの目的が大事だと思いますので、目的に沿うとやはり正確性というか、しっかり内容が伝わるといことが大事なので、もう一回確認するとしたら、徳本委員が後からでもいいということが言われていたので、同時ということが一番いいんでしょうけれども、やはりしっかり伝わると、理解していただく、理解しやすいというところが大事だと思いますので、その点に関してよいと私は考えております。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 前回の結論としましては、するかしないかを定めるための検討を今回から行っていくという話だったと思うんです。荒井委員の先ほどの御意見ではするということを前提で検討するというをおっしゃっていたので、それはどうなるのかはっきりとどちらにするのかここで明確にしておいていただきたいと思います。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 うちの父は最近耳が遠くてテレビに字幕がつくと喜ぶんです。だから、やはり障害のある方だけじゃなくて、これから高齢者が非常に白井市は増えるわけです。議会に興味を持っていただく、市民に議会を開かれた議会として見える化していくという点では、これは非常に大事な要素だと思います。

それで、検討するのにするかしないか決めてからというのは、検討した結果するかしないかが決まるんだと思いますので。

○古澤由紀子委員 そうですよ。

○平田新子委員 それを大前提に先に決めたからというのはできないんじゃないかなと思って、その辺のニュアンスが分からない、ちょっとお尋ねします。

○長谷川則夫委員長 前回の会議でもそうですけれども、まず検討するかどうかを決定します。その後、検討結果次第ではやはりこれはやらないとかいう結果もあり得ますということです。

伊藤委員。

○伊藤 仁委員 今話しているのは字幕の話であって、その前のA I 議事録と話を分けて話してもらわないとごちゃごちゃになっちゃって前後ろが分からなくなっちゃいますから。今は字幕をつけるということは皆さんがやはりそれはそういう方向だよねということできっと固まっていると思うんですね。

ですから、そのやり方を私たち委員がそんなには知識もないのにここで議論していてもいい結果は出ないと思うんです。字幕をつけるについては専門の人にどうやったらいい方法があるんだということを問い合わせるとか、議長なり委員長と相談してもらってどこかの業者に確認してもらおうとか、そういう方法をしてもらったほうが、この場でみんなが大して分からない技術的なことを議論するのはやめていただいて、つけるということはいいことだという理解だけをこの場で決まればいいことじゃないかなと私は思うんですけれども。

○長谷川則夫委員長 先ほど提案者からもあったように、A I 議事録のところがなくともほかの方法があるのではないかという提案がありましたので、ここは字幕をつけるということに特化して検討するかどうかという意思を確認したいと思います。よろしいでしょうか。

石井委員。

○石井恵子委員 先ほど議長からUDトークを使うと安価でもって正確にできるというのがありましたよという御提案がありました。ただ、今すぐじゃなくても、ちょっと時間を置いて、もう少し時間を置いてもっとどんどん良くなるからというような御発言だったと思うんです。文字、字幕をつけるのはもちろんいいことでぜひやりたいんだけど、これをやると決めてから調査研究すると、もしかしてすごくお金がかかるかもしれないけれどもやると決めちゃったんだからやらなきゃねとか、そういう方向になっちゃうとまた違うと思うんですよ。

だから、必要だと思うから検討する事項ではあるけれども、検討していったときに、それこそちょっと白井市では合わないとか、今じゃないかもしれない、あと1年後かもしれないとか、あるいは今やったらこんなにお金がかかっちゃうけれども、時期をもう少し遅らせればもっと安くできるかもしれないとか、そういうことも含めると、やることを決定したんだから進め方を考えようじゃなくて、できるかどうかを含めて今後検討していきましょうというほうがいいと思うんです。私は古澤委員がおっしゃったのはそういうことだと思うんですけれどもいかがですか。

○長谷川則夫委員長 最初に申し上げたように、やることを決定するのではなくて、検討することをここで決定してから進めるということですので、その検討結果によってはやる方向やらない方向が決まると理解をしてください。

田中委員。

○田中和八委員 伊藤委員が言ったように、反対ですよというような多分質問は今までなかったのかなと感じたんです。皆さんの御意見は、徳本委員が結構メモを作って今後調べていただけるのかななんて今期待はしているんで、ぜひ何かの機会に報告をお願いしたいなと思っています。

○長谷川則夫委員長 今後の進め方についてはこの後をやりませけれども、考え方として全員でやるのか分科会にするのか、そういった方法もありますから、それは皆さんにお諮りしながら進めますので、その方向については今後の話にさせていただきます。

今のところ字幕に関しては反対の意見がないようですけれども、いや、これはやめたほうがいいという人はいらっしゃいますか。

○平田新子委員 それは検討をやめるという意味ですか。

○長谷川則夫委員長 検討をやめる。今回で検討は終わりますよという考えの方はいらっしゃらないですかね。特にこれは起立採決しなくてもよろしいですか。

〔「はい」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 であれば、字幕をつけることに関しては今後検討するという事で決定をした

いと思います。

1時間程度過ぎましたので、ここで休憩をいたします。

再開は11時10分。

休憩 午前10時57分

再開 午前11時10分

○長谷川則夫委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

岩田議長。

○岩田典之議長 先ほど私が発言した中で、1点だけ訂正させてください。水戸市議会の傍聴席で見たもので、先ほど私は「映像と一緒にテロップ」をと話しましたが、すみません、勘違いでした。今、思い出しました。傍聴席にあるモニターに文字だけ、しゃべった文字だけが流れてくるので、映像は映っていませんでした。すみません、訂正します。

○長谷川則夫委員長 要するに、発言されている映像と別に文字だけということによろしいですね。

○岩田典之議長 はい、文字だけが傍聴席にあるということでした。失礼しました。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。

それでは、引き続き検討事項に入ります。3番の本会議場に360度カメラの導入ということで、私のほうから提案者に確認したいんですけども、ユーチューブの活用については既に検討しないということが決定されていますので、ユーチューブを使わないでこの方法が可能かどうかについて確認をしたいと思います。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 分かりました。本会議に360度カメラを導入するというので、ユーチューブを使わないという場合は技術的に大丈夫なのかという御質問になるかと思うんですけども、これは私の素人の見た目になりますが、例えばこの委員会の機械の中だと、外部端子が1つ空いているので、そこに接続をすれば合体させることができるのかなと見立てました。実際やってみないと分からないんですけども。

それで、今私が提案した方法は取手市議会と同じで、360度カメラが別置きでどんと真ん中に設置するタイプなんです。だからそこから配線をあっちのほうにつなげるというやり方になります。なので、技術的に可能かどうかというのが、皆さんから賛同いただければ調査研究で確認したいというところもあります。ちなみに360度カメラを購入した場合なんですけど、取手市議会と同じレベルのカメラを購入した場合は定価で13万2,800円ということでした。

あと、本会議場ではどうなんだということになった場合に、真ん中にでんと置くタイプもあれば、天井に埋め込むタイプの取り付け、ああいう感じの360度カメラをつけるということは、それ自体

は可能だとは思いますが、可能なんですよね。可能だというのは確認を取っています。

ただ、そのカメラの映像が今入っている録画配信にリアルタイムで入っていけるかどうかというのは業者のほうに確認しないとできないので、その点は調査研究になると思います。

なかなか、AI議事録のときもそうだったんですけども、個人で調べていてもやはり詰まるところ業者に聞かなきゃいけないとか、見積りをしなきゃいけないとかとなると、議会事務局を通さないと調査ができないので、どうしてもそこに限界を感じています。なので一步踏み込んだ調査ということになると、やはり皆様から承諾を得た上できちんと確認していくという作業が必要だなというのは実感しているので、ぜひ調査させていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

○長谷川則夫委員長 ということでした。

平田委員。

○平田新子委員 今ここに置いた場合みたいなお話もあったんですけども、市民の声からの提案というような中には本議会の議会中継ということで、本会議場に360度カメラということで、ここは前提から外して議場だけを考えていいということですか。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。本会議場か委員会室も含むのかという、今そういうことですね。

○平田新子委員 議場に限るといえることでしょうか。

○小田川敦子副委員長 そうですね、議会に。実際は全部に360度カメラを導入できたほうがいいとは思っていますけれども、提案のタイミングでは……。

○柴田圭子委員 補足します。

○小田川敦子副委員長 お願いします。ありがとうございます。

○長谷川則夫委員長 柴田委員。

○柴田圭子委員 本会議場を想定しています。天井に取り付けるタイプというのももちろんあって、それは公マネに確認して、事務局に聞いてもらったんですけども、公マネに確認したところ取付けは可能で。システム的につなぐことは可能だけれどもどういう見せ方をするかというのはシステムのつなぎ具合とか何かがあるので、それは中の操作になるので、そこは何とも調査してみないと分からないというところで、取付けは可能だということでした。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 そこに設置することが可能ということは今分かりましたけれども、今度今実際ライブ配信しているものとそこがつながるといふことに関してはまだ未調査ということですか。分かりました。

○長谷川則夫委員長 ほかにございますか。

荒井委員。

○荒井靖行委員 提案者の補足説明として聞いていただきたいと思います。まずこのお部屋なんです

けれども、この部屋でも実は360度カメラをつけられます。大抵の場合つけているパターンは、今ある議長席の後ろに三脚を置いて、そこから360度カメラが使えるような状態ですので、実はあまり費用はそれほどかかるものでありません。

それと、本会議場につきましてなんですけれども、本会議場につきましては、これも傍聴席の後ろに設置をするというパターンもありますし、もう真上、本当の天井から設置するパターンというのがありますけれども、見え方が大きく変わってきますので、ここは検討の余地があるかと思います。

皆さん一番今回お話で気になっているのは、ユーチューブは369度カメラは分かるんだけど、今使っているインターネット中継で360度カメラが使えるのかというお話があるかと思います。結論から言うと可能なんです。その代わり、多分視聴者のほうで例えば360度カメラを見るのか、あるいは今ある面割といいますか、面割をしている操作に合わせて見ているカメラを選ぶのかとか、そういう視聴者によって選択をするようなパターンがあるかもしれません。そのために当然操作が変わってきたりとか、実際に視聴される方の操作が少し増えたりとか、そういう可能性はあります。

以上です。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 すみません、私がさっきお聞きしたのは、提案の中には本会議場にと書いてあって、この部屋は関係ないと確認したら、ここにもつけられると今、どっちが本当なんでしょうか。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 すみません、補足説明でちょっとお話ししました。このお部屋でつけられないということはありませんというだけでございますので、今回の提案では関係はありません。あくまでも補足の説明と御理解ください。

○長谷川則夫委員長 ほかに質疑はございますか。

田中委員。

○田中和八委員 ここのところ比較的中継をテレビで見る機会がありまして、早退させてもらったり、自宅で初日、2日、2回ぐらい最後の方の家で見えています。それで、それを見ながら思っているのが、答弁者と質問者の顔、それと資料、これだけしか映っていないんです。そうすると、発言者はどこでしゃべっているのかとか、答弁者はどこでしゃべっているのかというのは全然見えてこない。ここに書いてあるとおりですよ。全体の様子を議場内にいる者のみでなく市民にも共有できるということになると、やはり全体を映す、どこでしゃべっている、議員の席がどういう配置で、発言者のところに行っている。答弁者もあちこちで担当の部長が手を挙げたからやっている。進行は議長がやっている。そういうのを全て見るできないので、個室で対面でしゃべっているみたいな感覚しか今の中継の中では出てこないんですね。

ですから、この間もお話を事務局のほうでさせていただいたんですけど、個人だけではなく全員を映すというアップが撮れるはずなんです。この間第一小学校でしたか、お子さんが来たとき、あ

のときなんかは全員が映っていますよね。あれと同じような方法を取れば途中に入れることは可能かなとは思っています。

例えば安価、値段がそんなにかからないよというのであれば、私は360度も含めて議場全部が見えるような形にしたほうがよろしいかなと思って、これは検討すべきかなと思っております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかにございますか。

今御意見までいただきましたけれども、質疑はありますか。

徳本委員。

○徳本光香委員 これの見え方なんですけれども、360度カメラを入れたとき、視聴者が360度カメラのほうに切り替えたとすると調整できるんですか、この角度を見たいとか。じゃなくて全部映っているという感じになるんですか。見え方がどうなんだろうと思って。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 指で画面が動くんです。だから、360度映っていますから、それこそ天井を見ることもできますし、ピンポイントでこの人というのも固定をして引き寄せることもできます。

○徳本光香委員 分かりました。

○小田川敦子副委員長 参考になるのが取手市議会の議会中継ですので、もしよろしければ、それはユーチューブで配信されていますから、ユーチューブを薦めているわけではなく、360度カメラの体験ということでぜひ確認していただきたいと思います。

あと360度カメラなんですけれども、最近子どもたちに1人1台タブレットが配付されている中で、文科省でも活用を薦めているのが360度カメラなんだそうです。発見型の教材ということで、一方向だけ撮るんじゃなく360度撮ったものを持ち帰って、持ち帰った先で必要な部分を切り取りをしてまとめ作業に入っていく、その発見がそのときに見つけなくても後から広がるというところで、360度カメラを教育現場でも活用しているという流れに今ありますので、そういう意味でも割と親しみやすいというか、なじみやすい存在にこれからなっていくのかなと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかに質疑はございますか。

石井委員。

○石井恵子委員 これは前にも伺ったような気がするんですけども、360度カメラは子どもがタブレットでも使える云々かんぬんという御説明がありました。議会において本会議場で360度カメラが何のために必要なのかというところを、つまり目的です。360度カメラを導入する目的が、ここに書いてあるのだけではちょっと私はどうなのかなという気がしています。

本会議場全体の様子を場内にいる者だけでなく市民にも共有できるようにする。先ほど田中委員から一視聴者として家で実際に見ていると、答弁者と発言者のみしか映っていないので周りの状況が

分からない、あったほうがいいというお話がありました。そうすると、全体の様子を知りたいということであれば、今の本会議場でもカメラをくっつけて引いて全体を映していることは何度もありますよね。当然採決のときにもそうですし。それをこれからもっと増やしてくださいとか、全体を映す機会を、例えば一般質問をしている議員の前と最後にしてくれとか中間にもしてくれとか、もっと頻繁に全体を映すようにしてくれというのであればその目的は達成できると思うんですよ。手元でぐるぐる回して一個人の議員の様子を見るような360度カメラが何のために必要なのか、もう一回御説明をお願いいたします。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 今石井委員が質問された部分が、まさに今回取手市議会に過去に視察に行ったときに感銘を受けたところだったんです。そもそも取手市議会が360度カメラを導入した経緯というところが、私が提案したい経緯とも重なるんですけども、傍聴に足を運ぶことが難しい方々の要望に応えたというところがまず1つ。そして、その議論を当時の女性議員による議会改革特別委員会というのを取手市議会が発足させて検討した経緯の中で、傍聴を自宅から録画で見る傍聴と議場で見る傍聴、その違いをどう考えるか、どう改善していくかというところがテーマになったんです。

つまり、議場で傍聴するときは自分の見たいところに視点を動かすことができますので、話の内容によって見たいところを心ゆくまで確認するということができた中で、傍聴を録画で画面越しに見た場合は一方向しか見られない。この差はやはり改善していこうということになったそうなんです。

過去の技術的なやり方だと、1つの画面に何コマか、例えば6区画ぐらいに分けていろいろな角度で映すという方法もあるかもしれないんですけども、議会中継においてはそういうのは一般的じゃないですよ。やはり発言者にカメラを向けるテレビ式の中継方式で録画中継していると思うんです。

でも、それに対して傍聴に行きたくても行けない人たちから改善してほしいという声に応じて、議場にいるのと同じように見たいところを自分で操作して見るということが360度カメラを導入することによってかなえられるということで導入に踏み切ったということを知りました。なので、それが思うよりも全然安価でいける金額であったので、今回白井市議会においても導入してほしいということで提案しました。

ですので、できるだけ画面越しの傍聴もリアルな傍聴も差をなくすこと、それにより現場に行けない人にもリアルな傍聴でいろいろな中継を見ていただくという配慮、これも一種の合理的配慮になると思いますし、アクセシビリティ法が可決されたことによって情報提供を保障しなければならないという、義務化に応えるということにも今はなると思いますし、いろいろな意味でウィン・ウィンなことではないかなと思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 石井委員。

○石井恵子委員 よく分かりました。

ではもう1つ、今合理的配慮ということがありまして、取手市議会で導入した経緯はよく分かりました。では、白井市民でこれをどうしてもやってほしいという市民の方はどれぐらいいらしたんですか。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 何人というのと、人数で答えるならば私はお一人から聞きました。車椅子に乗って車を運転して議場に行くのは、できないことはないけれどもやはり大変だから自宅から見るといってお話は聞きました。

以上です。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 先ほどの石井委員の質問に対してお答えしたいと思います。

今回私のほうで議会に来てくださいますとすごくチラシをかなりまいたんですよ。まいて、それで実際に来た人は本当に少なかったんです。後でやはりいろいろ聞きました。でも、それは理由も聞いて当たり前だと思っているんですけども、「平日の真っ昼間にそんなの見られるわけねえだろう」とか言われたこともあります。だけど、「おまえがそうやって出したんだったら録画で見るとはやるようにするか」ということも言っていただきました。

そういうことを考えると、どうしても行きたくても行けない人のためになるべく行ったものに近いものをお出しする、これが非常に大事なことで、実際には興味を持ってくれても実際ここに現地に來るといことがどれだけ難しいかということと考えたら、やはり市民の人にリアルな現場を見てもらうための意見、それは実際にはたくさんあります。それだけはお伝えしておきたいと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 広沢委員。

○広沢修司委員 今御説明の理由の中に、傍聴で来るのと、傍聴に來れない方はカメラで見るものを少しでも同じような条件でということなんですけれども、カメラで見るのと議場に來るのでは明らかに違うに決まっていますし、それを近づけるといっても、程度の違いはあれど來るのと違うわけですよ。360度カメラをつけて発言していない人とか全体が見られるということがそんなに大事なのかなというところが議論のするべきところなんだろうと思うんですけども。

議会のカメラがある理由というのは、誰がどういう発言をしているか、発言とか進行がどのように行われているとかという内容を追いかけるためのものというのがまず基本だと思うので、それ以外の部分について傍聴に來ている人とカメラで見ている人を同じぐらいにするために360度カメラをつけるというのは、私はちょっと理解が、納得ができないなというところですよ。意見です。

○長谷川則夫委員長 意見ですか。意見までいっていますけれども、質疑のほうは締め切ってよろしいですか。

石原委員。

○石原淑行委員 小田川副委員長の説明で、取手で進めるに当たって、要望に応える形で実現したということだったんですけれども、その要望自体はどんな要望だったのかというのをもう一回確認させてください。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 取手市議会の議場の傍聴席は車椅子で入れないようでした、段差があって階段があって車椅子の方は1人では入れないんで、それが工事をしても今の現状は改善できないということが課題になっていたそうです。そこから、行きたくてもいけないということで360度カメラを設置する方向にはなりましたけれども、今委員会の傍聴でも、こういう委員会室のところでも中継はしていますので、やはり入れたことのメリットというか効果というか満足度は広がっているのかなと感じています。きっかけは議場に車椅子の方が入れなかったということへの対応でした。

○長谷川則夫委員長 石原委員。

○石原淑行委員 ということは、今白井市で行っている映像でも家で見られるのかなというところで、その方に対しての要望としては応えられる範疇なのかなというところでもいいですか。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 画面に発言している人の顔が出ています、音声も聞こえています、その確認は画面越しでは現状十分できていると思います。けれども、では傍聴に来ている人が発言している人の顔だけ見ているのかといたらそうではない、その部分を補うのが360度カメラだと思いますので、そこまで丁寧に中継を届けるかどうかというところで、いろいろな経緯もありながら取手市議会は360度カメラの活用を広げてきたということだと思います。私もそれに非常に、そういう議会の在り方というか発信していく方向は賛成だなと思っています。

ちなみに取手市議会の報告書を見た後に、360度カメラを導入したことを水戸市議会も視察に来ているんですが、水戸市議会のほうは取手市議会のそういった配慮をするというところではなく、市民のほうから議員はちゃんと議会中にどういう姿勢で取り組んでいるんだということも可視化してほしいという要望があったことを受けて、取手市議会に視察に行ったということが取手市議会の報告の中には入っていました。ただ、実際水戸市議会が360度カメラを導入したかどうかは、すみません、確認してないので分かりませんが、いろいろな見方ができるというのはあると思います。

○長谷川則夫委員長 石原委員。

○石原淑行委員 そうすると、小田川副委員長に要望のあったそのお一人の方も、白井市の議会の一人一人の姿勢を見たいという要望だったのでしょうか。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 一人一人を吟味するかといたらそうではないと思います。話の流れの中で、例えば議員が一生懸命討論しているときにほかの議員はどうしているのかということもあるだろうし、見たい議員をアップで見たいということもあるだろうし、そこは私が想像するところではないので何と

もお答えしがたいです。それこそリアルに傍聴している人はどこを見ているかといっても、そのときの気分というか話の流れで見ているだけなので、そこはどうなのでしょうね。

ただ、私が聞いて答えてくれた人は両方見たいとは言っていました。議員も見たいし執行部のほうも見たいし、両方見たいとは言っていました。どんなときにどっちを見たいかまでは突っ込んでいながら分からないんですけれども、ただ話している人の顔以外のものをやはりくみ取りたいというようなニュアンスで私は受け止めましたけれども。

以上です。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

古澤委員。

○古澤由紀子委員 要は議場の様子をより詳しく見たいということだと思えるんですけれども、議場の私たちの取組というのは市民に必要ないろいろな事項を条例なり予算なりにして執行部に上程する。それに対して議員それぞれが質疑をして、その内容がより正確に分かるようにして、その結果、それぞれが賛否を表明して、最終的には議会の意思というものが決まっていくわけです。その辺を深めることであれば私は必要だと思いますけれども、今小田川副委員長がおっしゃったいろいろ説明の中にそれがいいのかどうか疑問です。その辺はどうお考えになりますか。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 より議論のやり取りを深めるために360度カメラは有用なのかということになれば、それこそ私は耳が聞こえますから、目を閉じていても話の流れの中で、もうそれで事足りちゃうかもしれないです。ただ、360度カメラというものの可能性を考えたときに、昔はリアルにしか来れなかった傍聴がライブ中継ということで自宅でも見れるようになりました。その先のさらなる画面越しに提供できる情報が360度カメラで充実していきますよという一つの流れだと思えます。だから、そこを、その結果を、そこが目指すところじゃないのかなと思います。一種の情報保障とか情報提供という概念の中での話なのかなと思うので、議論を深めるのに有用かどうかというのは必ずしもイコールではないとは思っています。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 ただいまの発言の中に、情報を出すということが大事なようなことをおっしゃっていましたが、何のための情報かということを考えられたらいいのかなと思います。その何のためのかというところが抜けているかなと思ったので質問したいと思います。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 いいです。

○古澤由紀子委員 さっき私は議場に……。いいですか。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 失礼しました。議場の中では執行部はこういう動きをし、それに対して議会はそ

それぞれの議員が質疑をして討論をし、最終的に表決をして、表決の結果議会の意思が決まるということを行ったわけで、それが議場での一番大きな機能だと思うんです。それ以上のものを360度のカメラが保障するものは何なのかということ具体的に聞きたいと思います。そういうものがあるのかどうか。全体像を見なければ……。一人一人の委員の表決は丸バツで議会だよりに出ています。表決は分かります。それは出ているし、あと採決の結果は議会の意思として、今までの画像の在り方でも十分分かります。それ以上のものを保障する、それ以上のものは何なのか、どうお考えになっているのか聞きたいと思います。必要なのかどうか。

○徳本光香委員 意見。

○長谷川則夫委員長 今に対する回答ですか。

○徳本光香委員 私なりの。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 提案者は別で答えてくだされば良いと思うんですけど、私は後で質疑が終わったら意見で言おうと思っていたのは、やはり市民には議会を有権者としてチェックしてほしいという思いがあって、私が生で傍聴にできるだけ来てほしいと訴えるのは、やはり臨場感というんですか、オンライン会議が幾ら進んでも、生のやり取りとか表情が見えて、全体の空気感というのはやはり生の会議には及ばないと思っています。

それで、先ほどのように映像で全部は保障できないというのは分かりますけれども、全体のざわつきとか反応、しゃべったときに相手方を両方見たいとおっしゃったのはそういうことだと思うんです。私が何か提案したときにやれやれという反応をしているのか、前のめりのときもあれば後ろにのけぞっているときもあるんです、執行部の方。その雰囲気というのも含めてチェックしてほしいというのが1個と。あと、だからやはり臨場感、その全ての様子をなるべく映像で見てほしい。見られるようになれば傍聴に来てと言わなくても何とかするというのはあって。

今回わざわざ病院の待合室でイヤホンとスマートフォンで見てくれたという方とかもいるんですけども、そういう方もいて、やはり固定された視点というのは圧迫感があるみたいなんです。なので、なるべく自由度を持たせたいという思いがある。

あと3つ目は、そうすることで関心が、議会はこんなやり取りがあるんだという面白さとか興味を引かれるということにつながるのが、じゃあ生で見てみようということにつながったり、行けない人もできるだけ生に近い体験ができるということになるので、意見を先に言っちゃいますけれども、まず検討はしてみたらどうかと私は思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 先ほどの古澤委員の御指摘で、議会というのは表決なんだからと、表決だから結論だよ、もう少し言うと、議会だよりの結果を見れば良いじゃんという具合にも私は聞こえました。私

は違うと思っています。あくまでも私たちの話し合うプロセス、そのプロセスがどのように行われているかというのを市民にしっかり見てもらうこと、これは私たち議員の活動のメインだと思うんです。

その中で360度カメラについて、一人一人を全然発言していない人を見るなんてけしからんじゃないかという思いもあるのかもしれませんが。そうではないと思うんです。皆さんが興味を持つところを自由に見ていただきながら、どのような雰囲気でのこの議会はどのようなプロセスでなされてやられているのかというのを私たちは提供する義務があるんじゃないかと思うんです。それをなるべくリアルに近づけていきたいなといったら、最近いろいろな技術が出てきて、こういうこともできるので採用してみてもどうかという意味ではぜひプロセスを皆さんに見てもらう、そして皆さんに興味を持ってもらう、これは非常に大事なことではないかと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 意見となっていますけれども、質疑……。

○伊藤 仁委員 返事がないもん。

○古澤由紀子委員 訂正してほしいんですけれども。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 今、荒井委員がおっしゃった表決が全てとおっしゃいましたけれども、私は執行部のほうからの説明から最後の表決、そして採決、表決と採決は違いますから、そこまできちんと申し上げたつもりで、そこだけが表決だけとは申し上げていないので、ほかの委員の意見を引用するときは正確に引用してほしいと思います。これは抗議です。そのほか何点かありましたけれども。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 表現の仕方に問題があったことについてはおわび申し上げます。しかしながら、私は古澤委員に確認をしたいんですけれども、プロセスが大事だということについては同意していただけますでしょうか。

○長谷川則夫委員長 自由討論なってしまっているので、そこは質疑のところでは差し控えていただきたいんですけれども。

○古澤由紀子委員 ここだけ申し上げていいですか。振られた。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 プロセスと言いましたけれども、執行部が上程して説明して質疑をして、そして討論をして表決をして採決をする、これがプロセスだと私は思っております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長、手を挙げられました。小田川副委員長。

○古澤由紀子委員 お答えですか。

○小田川敦子副委員長 答えます。さっき徳本委員がおっしゃった臨場感、360度カメラを使って自分の見たいところを見るというところでより興味関心、引き込まれるでしょうし、そういった臨場感

は伝わると思います。今の画面よりも360度カメラを使うことによって議会の臨場感というのは伝わると思います。それによって、やり取りであるとか、結果に対して親近感も持つと思うんです。その親近感というのは市政への関心でもあるし、議員への関心でもあると思います。議会でいろいろと議論されていることは全て市民生活に係ることをやっているわけなので、そこに今なかなか興味関心を持たれる方が少ないという状況の中で、より議会を注目してほしいとか、市政に関心を持ってほしいというところで360度カメラが働いてくれたらいいなとは思っています。

あとは、その見え方が本当に必要なのか、議論に有用なのかというところは、もうそれこそ個人の価値判断になってくると思うので、そこは私とは相容れないところかなとは思っています。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 興味関心というところが一番大事だということは分かりました。

○長谷川則夫委員長 田中委員。

○田中和八委員 先ほど発言したんですけれども、全体を私は映してほしいということであって、何かお話を聞いていると380度カメラ、ああ、360度カメラ、自分の名前を入れちゃいけないな、カメラで、手で自分の見たいところを動かせるというのは、例えば答弁者、発言者以外のAさん、Bさんが何をやっているのかなと見るわけですか。それはちょっと悪趣味とか、何とっていいのか、360度カメラがそういう用途しかないのであれば、私がさっき価格にもよるけれどもというお話ししたんですけども、定期的に全体を360度こちらのペースで映していくのであれば、今まで自分が見た中継録画なんか1か所1か所だけじゃない臨場感のある、どこで発言している、誰が答弁している、その人はどこに座っているというのが見られるからいいかなと思ったんですけれども、自分で自分の見たいところをとというのはちょっとその利用の目的がどうなのかなという感じなものですから、そういう目的、そういうやり方しかできないのであれば違う方法を考えるべきかなと。さっき言った引きでいくとか、全体は見せてほしいなとは思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 見え方は、どう見るかは個人の感覚とか、個人の見たいところを見るんであって、悪趣味な人ばかりではないし、意地悪な人ばかりでもないと思いますし、それこそ一般質問のときに推しの議員をずっと見ているかもしれないし、それは本当にその人が見たいところを見るということが可能なのが360度カメラですということです。ですから、悪用するために使うものではありませんし、それこそそういうのを、議場にリアルに来ている人はこちらが思わないだけでどこを見ているか分からないというのは360度カメラ越しに見ている人も一緒ですから、そこに差はないのかなと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 秋谷委員。

○秋谷公臣委員 まだこれは質疑ですか。

○長谷川則夫委員長 質疑です。

○秋谷公臣委員 では、いいです。意見のほうがいいです。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 先ほど360度カメラは議場だけじゃなくてこっちでも使えるみたいなことがあって、議場だけに限定するんですねと確認したんですけども、その後のどなたかの回答のときにも、活用が広がるということ、それで市議会は360度カメラを入れたことによって活用が広がり市民の興味関心がアップしたというような意味合いのこと、言葉は正確に覚えてないんですがそのような意味合いのことをお聞きしたんですけども。やはりそれは前提に、活用が広がるためには、取手は全協も議運も全部公開しているんです。そういうところで活用が広がるチャンスがあっただけで、白井市議会はそこを公開するとはなっていませんので、活用の範囲というのは結局議場だけに限定されるのかなと思うんですけども、その辺はどう考えているんですか。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 今回の提案は本議会ということで提案をさせていただきました。もし導入されて、その先に振り返って活用を広げていこうかとなった先には、例えば委員会の、常任委員会とか特別委員会の導入もあるかもしれないです。ただ一遍に全部というのはなかなか難しいかなと思ったので、一番大切な本会議でということで今回提案をさせていただきました。ですから、限定をしているわけではないけれども可能性もあってほしいという期待値はあります。でも、今回の検討は本会議場でということで言っています。

○長谷川則夫委員長 議長。

○岩田典之議長 先ほどの平田委員の発言の中で、全協も何とか会議も公開をしてないという発言がありました。全て公開しています。ただネット配信はしていませんけれども、市民には公開していますから、その辺は訂正をお願いしたいということと。

もう1点、これは質疑をしたいと思うんですけども、360度カメラというのは見ている人が自宅でもどこでも好きな人をピンポイントで見るということですよ。確認なんですけれども、これは傍聴席も全て見れるということでもよろしいのでしょうか。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 360度だと傍聴席のほうも技術的には見えます。ただ、カメラによっての設定というのもあります。180度の設定ということもできますから、それはカメラの向き、それから、どこまで公開するかということにもなります。

あと、360度カメラですごく1人に限定されるような見方を皆さんイメージされているかもしれないんですけども、引きに、広角にして、例えばこっちの面を全部映すということももちろんできるんです。それももちろんできるんです。見え方が、広角、広く見るのもあれば、ピンポイントで見るの

もあれば、そこは自分の好みで調整できますよということです。

○長谷川則夫委員長 議長。

○岩田典之議長 確認なんですけれども、制限ができるのか分かりませんが、今提案者が考えているのは傍聴席も含めて自宅から見れるということでしょうか。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 いや、そう問われると、傍聴席までは公開する必要はないなと思いました。ただ、私が見た中では360度でしたから、傍聴席も見えていました。けれども、個人的に興味がなかったから見ていなかっただけで、映っていたなというのが今脳裏によぎっています。そこは調整というか設定は可能ですが。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。質疑のほうはまだございますか。

平田委員。

○平田新子委員 今議長から御指摘あったことを訂正させていただきます。公開していないというんじゃなくて映像配信していないということで、意味合いが違うので訂正させていただきます。

○長谷川則夫委員長 質疑はまだございますか。

石原委員。

○石原淑行委員 ちょっと変な質問になってしまうんですが、カメラの調整なんですけれども、ピンポイントで一議員にということで、例えば一議員をすごい拡大して顔をどアップにして鼻の穴まで見えますような、そんなことはできるようなものではないということですか。すみません。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 そこまで精度は良くないです。やはりピンポイントにすればするほど画像はぼやけてきます。表情とかそういったものは伝わるものはありますけれども、クリア感というか、そういうのはどんどん精度が落ちていきますし、もしよろしければ今取手市議会のを体験してみますか。

○石原淑行委員 それは結構です。確認だけだから。

○小田川敦子副委員長 いいですか。

○長谷川則夫委員長 質疑はほかにもございますか。なければ御意見をいただきたいと思います。

田中委員。

○田中和八委員 先ほどから取手、取手ということで、取手をすごく参考にというようなお話で、確かに取手の議会は進んでいる、事務局も含めてですけれども、それは分かるんですが、他市のほうもどういう形になっているのか。その辺をぜひ調べて次のときか何かにも御報告いただければありがたいと思っております。

○長谷川則夫委員長 秋谷委員。

○秋谷公臣委員 今、田中委員が取手と言われたんで、取手議会では議会だよりを出していないと思うんですけれども、その辺もあって、全部取手、取手というのは私自身あまり関心がないもので。

それよりも、全360度ということは、さっき言った傍聴席を含めて、執行部を含めて、皆さん全員プライベートなこともあると思うんで、全部映るからいいもんでもないし、私自身は議会というのは一問一答じゃないですけども、執行部と議員との間のやり取りがメインなもんで、全部映したからといって臨場感があってどうかというのは、私はそう思いません。それよりも質疑、討論の中身が問題であって、そこをどううまく映すかで、それがメインだと思うんで、皆さんの顔を映したから、議場がどういう雰囲気だったかとか、傍聴席がどうだったから、委員席がどうだとか、そういうことは私自身はあまり関心がありません。ですから、私自身は360度のカメラを入れることについてはあまり賛成できません。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかに。

平田委員。

○平田新子委員 よくコロナのときなんか委員会室のほうでも見られますみたいな感じで、議員も議場の中で傍聴する人もいれば委員会室で見る人もいてというので、私は議場で見るほうが好きだったんです。やはり誰かが意見を言ったときに執行部がざわざわとなったりとか、そういう言っている人じゃないところの反応、それからすごい強い意見で、「市を追及してやる」みたいな意見のときの市長の顔ってどんなかなとか、そういうのは興味あるので、やはりそういう臨場感という意味では言っていच्छる意味は分かります。

それを悪用して、どの議員が寝ているとか最中に何かほかのことをやっただとかいうのは本当に一部の人だろうとは思いますが。ただし、その検討に入る以前に、物理的なこととして、そのカメラをつけたとして、どこにつけるか置くかは別として、それが今のカメラのシステム、映像システムというのは工事をしてきちんとしたもので、それで予算のときも1年間それで契約を延長して、1年間契約している間にほかのことも検討するんだったら検討しましょうみたいなことで、今の状態は1年間キープされるわけですね。その中でつけたカメラが映像配信として市民の元に届くかどうかという物理的なことは、別に検討委員会をつくる以前に執行部とカメラを設営している業者で確認していただければ、わざわざ何か検討するグループを立ち上げなくても出てくるのかなと思いますので、その物理的な答えを得た上で検討していくのかどうかを決めたらどうかなと思っています。

賛成とも反対とも取り留めもないんですけども、プロセスとしてはまず物理的にどれだけが可能で、例えばそこに経費が新たな工事が必要だったりとかそういうことも含めて、その上でもう一回検討課題として載せるかどうかを考えたらどうかなと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかに御意見ございますか。

荒井委員。

○荒井靖行委員 先ほど秋谷委員から御意見をいただきました。非常に参考になる意見だったと思い

ます。その中で、私が思っているのは、議場に入ったら私たちのプライバシーはないものだ。執行部の人たちだってきっとそう思って議場に望んでいると思います。まさにそこはきちんと皆さんで議論をする場所であるわけです。そこをどのように見ていただこうか、傍聴席であろうとカメラであろうと私は変わらないものだと思っています。

とはいえ、とはいえなんですけれども、実際に今のユーチューブが使えない状況の中でどうやって載せていくかという、幾つかの課題はあると思うんです。その中で、実際に思ったことが実現できるのかどうなのか、これについてはまだ議会活性化委員会は来年の3月までありますよね。そういう意味では、みんなをよく検討すべきではないかと思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 伊藤委員。

○伊藤 仁委員 360度カメラは、取手市でやっているのは誰が操作してどうやっているのかとか、そういった詳しい状況をみんなが共通認識で持っていない中でこれを入れるか入れないかの議論だけしていても進まないの、取手市ではこういうふうに使っていますよ、第何回の議会のときのどの録画映像を皆さん見てきてくださいとか、そういった情報をいただいて見てこない、どう使われているか全然分からないような中で議論していてもあまりうまくいかないんじゃないか。時間ばかり食って議論が深まらないと私は思うんですけれども。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかに御意見ございますか。

徳本委員。

○徳本光香委員 今、何人かの方が発言されたことに賛成です。私は検討自体はしたほうがいいと思っているんですけれども、やはり取手市以外の情報が欲しいということとか、どう操作しているかの情報が欲しいとかという意見が出て、それとか工事のこととか、もうちょっと情報を得た上で検討するかどうか決めたいという意見が出ているので、それを出してもらって持ち越してやるほうが、こちらみんなが納得して検討するなりしないなりできると思うので、調べてきてもらったり、自分たちももうちょっと見てみて操作してみるという体験をして次に話し合ったらよいかかなと思いました。

あと、先ほどの発言で修正なのは、取手市は紙の議会だよりはやめたんですよ。〔「やめていない」と言う者あり〕紙のもあるけれども、それを希望の、私もすみません、つまりやめちゃったというのは違うと思うというのと。あと私も議場にいるときはプライベートではないので、公務なので、公の場であるというのは言いたいと思います。私たちが関心があるかどうかという議論ではないと思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 今の徳本委員の補足、本題とは関係ないんですけども、取手市議会は議会だよりをやめたわけではないです。SNSに載せて配信していて、SNSでパソコンとか操作ができない方に関しては少ない部数印刷してお渡ししているというスタイルです。

○長谷川則夫委員長 意見ございますか。

久保田委員。

○久保田江美委員 私としては正直、引きの映像を入れたりという形でまずやってみるというのでもいいのかなとは思っています。すぐに360度カメラを入れるんじゃなくて、引きの映像を入れてみて、引きとアップとというのを入れた感じで実際市民の方が見た感じどうなのかと、やはりそれよりさらにもうちょっと欲しいという要望が出てくるようであれば360度カメラを入れるというのでもいいのかなと思っております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかに御意見ございますか。

今、皆さんから御意見いただいた状況を整理しますと、これについては検討するという方向と、検討するにしてももう少し情報が欲しいという御意見と、検討しなくてもいいという意見に分かれていますけれども、いかがいたしましょうかね、その辺について。

石井委員。

○石井恵子委員 私は先ほど徳本委員がおっしゃったとおりでと思うんです。今の皆さんの御意見の中には、取手市以外はどうかという意見とか、あと360度見られるんじゃ傍聴席まで見られちゃっていいのかという話とか、もう少し提案者にお聞きしたいことがまだまだあると思うんです。なので、またそれぞれが、私も自分の支援者に議場に360度カメラを導入する必要があるかどうかということを知ってくる必要もあると思うんです。先ほどの提案者からは車椅子の方がお一人と言っていましたけれども、それぞれの議員が聞いてきてもいいと思いますし、先ほど徳本委員がおっしゃったように、取手市議会の様子をそれぞれがみんな勉強してきてもいいし、もう一回持ち帰って、次にもう一回話し合うべきかなと思います。

○長谷川則夫委員長 ほかに御意見ございますか。

今のところもう一度持ち帰って次回の会議でという御意見が多いようですけれども、いやいやという方いらっしゃいますか。

秋谷委員。

○秋谷公臣委員 先ほど私の意見を言いましたけれども、それは取手の議会とかいろいろ見ていないもので、なんで勉強して、ほかの印旛郡市でも千葉県でもそうですけれども、そういうところ、やっているところがあって、勉強できる場所があれば私も積極的にそこを勉強して、私自身は今あまり薦めないんですけども、そういうところを見て、もしよろしければ今度の会議までにはあちこち見たいと思っていますので、さっきも意見を言いましたけれども一応勉強したいと思っています。

以上です。

○長谷川則夫委員長 いかがでしょうか。今秋谷委員からももう一度という御意見が出ましたけれども、360度カメラに関しては、提案者のほうも調べていただいて、もし資料等があったらまた私宛てに出していただいてサイドボックスに載せるなりして、検討していくということによろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 では、そのように決定したいと思います。

時間が、この後ほかの用事がございますので、この程度にしたいと思えますけれども、まだ決まっていない3と4に関しては次回やりますが、今後どうなるか分かりませんが、進めると決めた場合、要は全員でやるのか、あるいは分科会をつくるのか、プロジェクトチームをつかってやるのか、方向性として、分科会にしたとき人選をどうするか、何人でやるのかという話を各会派でしていただきたいと思えます。

今後のスケジュール等を考えると、なかなか3月までという期限の中で進めなきゃいけないとかあるんですけども、ある程度目安なんですけど、今後8月から12月の間に検討していただいて、翌年の1月頃報告していただいて、その報告に対して3月頃までには決定をしたいと思っています。決定できないこともあるかと思えますけれども、そういった意味合いで行いたいと思っています。

副委員長と相談して、次回の会議を7月12日に設定したんですが、一部の委員が出られないというお話が私のほうに届いています。ただ、大変申し訳ないんですが、なかなか調整が難しいので、7月12日の10時ということで決定をさせていただいて、出られない方に関しては会派の出られる方に御自分の意見を集約していただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

○平田新子委員 7月12日の10時ですか。

○柴田圭子委員 もう一回言ってください。

○長谷川則夫委員長 次回の日程は7月12日午前10時からを予定しています。

次回検討するのは、今皆さんから御意見のあった360度カメラ、検討していないタブレットの使い方、もし時間があれば、その会議までに決定した事項について全員でやるのかあるいは分科会をつかってやるのかという、その進め方について検討したいと思っていますので、各会派の中で協議をしていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

○古澤由紀子委員 午前中ですか、午後もかかりますか。

○長谷川則夫委員長 基本的に午前中を考えています。

では、本日の決定した事項を確認させていただきますけれども、本会議場での録画映像に字幕をつけるということは検討する方向で決定をしました。決定したのはこの事項でございます。

それでは、委員の皆様からほかに何かございますか。

〔「なし」と言う者あり〕

- 長谷川則夫委員長 議長から何かございますか。
- 岩田典之議長 ございません。
- 長谷川則夫委員長 事務局から何かございますか。
- 松岡正純議会事務局長 ございません。
- 長谷川則夫委員長 ないようですので、以上で本日の日程は全部終了しました。
よって、議会活性化特別委員会を閉会いたします。
慎重なる御審議を賜りまして、誠にありがとうございました。

閉会 午後 0時11分

以上、会議の顛末を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和6年 月 日

白井市議会活性化特別委員会委員長